



## 『絵本のちから』

齊藤ちぐれ

ファミリーホームで子どもたちと生活していて、生まれてからこれまでの成長の過程を振り返る「生い立ちの授業」にいつも頭を悩ませています。皆さんも様々に対応されていらっしゃると思います。

実親さんや児童相談所、前にいた施設などと連携して写真やエピソードをいただいたり、里親支援専門相談員さんにライフストーリーワークをお願いしたりして対応する一方で、学校に対しては家庭の事情で対応できない場合がある事を伝え、社会的養護下にある子どもを含めて誰も傷つかないような授業内容にできないかと相談しています。

子どもたちにとって大切なのは、自分は他のみんなと違うと卑屈に感じたり、過去の出来事を思い出して苦しんだりすることなく、自分を大切に感じられること、自分は愛されていると感じられることだと思います。

担当される先生によって考え方も違うので明確な答えは出ませんが、子ども一人一人の状況に応じて、常に子どもの気持ちに寄り添ってじっくりと向き合っていきたいと思っています。

前回の養育者研修で講師をしてくださった長瀬正子さんに、「絵本にそっと寄り添ってもらおうこと」を紹介していただきました。これが我が家にはぴったりハマりました。

子どもの心の中に、「ふつうの子は～」「ほんとうのパパとママがいるけど、今はニセモノのパパとママといるから」と安易には解消できないモヤモヤが生まれた時、『わたしのかぞくみんなのかぞく』『ぼくのかぞく』という本と一緒に読みました。

「いろんな家族がいて、どんな家族もふつう」「うんでくれたママと今いっしょにいるママ」というフレーズが気に入ったようで、寝る前にたびたびリスエストされて読み聞かせをしています。

心のモヤモヤが晴れてスッキリ解消!という訳ではありませんが、分からなかったり困ったりした時は子どもと手を取り合って進んでいこうと思います。私自身も一緒に悩み考えている姿を子どもたちに見てもらおうとともに、子どもたちには「自分らしく、今のままで大丈夫だよ」と訴えかけて、成長してほしいと思っています。

長瀬さんおすすめの絵本は、「ちいさなとびら」で紹介されています。

検索してみてください!!